

アブダビ首長国のエネルギー政策 ーアブダビ首長国が抱えるエネルギー問題と我が国への影響ー

(サマリー)

2013年1月、UAEのAl-Hamli エネルギー大臣は、アブダビ首長国の原油生産能力増強計画の進捗が遅れ気味であるとともに、近い将来に天然ガスの純輸入国になることに懸念を表明した。アブダビ国営石油会社 ADNOC が 2009 年 3 月に公表した原油生産能力増強計画では 2017 年末までに 350 万 b/d とすることを目標としている。また、天然ガス開発も電力を中心とする天然ガス需要の急激な高まりへの対応として、海上油田の非随伴ガス開発プロジェクトや高硫黄ガスの開発に着手したり、周辺国からのガス輸入を進めたりもしている。

しかし、原油開発においては ADCO の利権更改問題による開発遅延の可能性や、ADMA-OPCO の油田維持のための地下圧入財源問題などがあるほか、天然ガス開発では大規模な高硫黄ガス（サワーガス）開発を推進しているが、副産物の硫黄価格問題や有毒ガス対策など解決しなければならない問題がある。また、天然ガス供給不足を補う手段として、天然ガス需要の中心をなす発電分野において、原子力発電や再生可能エネルギーを導入しようとしており、アブダビ首長国では 2020 年までに同首長国の電力需要の 25% を原子力発電で、7% を再生可能エネルギーで賄う計画も打ち出している。原発については 2020 年までに 4 基建設することにより 25% を達成しようとしているが、再生可能エネルギーについては 7% 目標に対して、現時点では 5 分の 1 しか計画が発表、推進されていない。他方で、アブダビ首長国の歳入の大半を占める石油輸出の安全保障を実現するために、同じ UAE の中での隣国であるフジャイラ首長国に場所を借りて、原油輸出、製油所建設、LNG 受入基地建設を行おうとしている。

これらアブダビ首長国が抱えるエネルギー問題による我が国への影響を考察すると、

- ① アブダビ首長国による天然ガス開発が進んでも、UAE 全体では需給バランスが好転せず、現在の輸入超過が更に進むものと想定される。したがって、将来的にアブダビ首長国と日本との間の LNG 売買契約は減量、解消される可能性があるため、我が国は同首長国による減量や契約終了を視野に入れた対策（代替の手配）を講じておく必要がある。
- ② アブダビ首長国の原油開発は遅れることが予想されるものの、増産される原油はアジア諸国を中心に輸出されると考えられる。我が国の石油需要は漸減していくと見られているが、UAE ではホルムズ海峡を経由せずにフジャイラを基点としての原油・石油製品輸出の道が備わりつつあり、我が国のエネルギー安全保障の観点から、総石油輸入量に見合ったアブダビ首長国からの輸入量を、今後とも維持しておく必要がある。
- ③ アブダビ首長国および UAE では、原子力や再生可能エネルギー分野を今後増強していく計画であり、そこには学術的、商業的協力も含めた UAE と我が国の協力関係を展開する基盤は存在している。将来的には、このような関係を踏まえて日本製品の販売に繋がる市場としての魅力も大きいと考えておく必要がある。